

令和4年度漫画家募集設定ストーリー

ウチは、父の代から印刷業を営んでいる。

先代である父は、とても研究熱心であり、休日に趣味の釣りをしている、新しいインクのアイデアが頭に浮かんだら、その場で釣り竿を放り投げ、会社に戻って試作を行うという人間であった。

そのおかげもあってか、自社の印刷技術は、他の印刷を生業としている会社に比べ、インクの定着性に優れており、業界でも「とても剥がれにくい」と評価をもらい、他社ができない印刷などの依頼も多く受注しており、現在もその品質を落とすことなく、日々事業を行なっている。

そんな矢先、父が急逝してしまった。

常に印刷技術やインク調合を高める研究をしてきた父は、開発の要であり、経営の柱であった。私はもちろんのこと、現場にも動揺が広がった。

社内が混乱している中、私が父の跡を継ぐこととなった。

私には父と同じような研究開発を行う能力は、ゼロではないが、低いと判断し、父の残した技術を継続・発展させることを、これからの自社の事業の主軸と据えた。

父の残した印刷の技術やインクの調合技術に最新の印刷設備やデザイナーの力をプラスし、跡を継いだ後も受注数を減らすことも、従業員を解雇することもなく、必死で事業を継続してきた。

そして、これを機に今まで OEM がメインだった取引も、少しずつ BtoC へと舵を切ろうと考えている。

この頃、ふと思うが、父の技術を後世に伝え残し、父が創業した会社を継続させるために、父とは違う事業の進め方を選んでしまった私を、父はどう思っているだろうと。。。